

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900702
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホームコスモス
所在地	宇和島市三間町黒川3 8 5 - 1
自己評価作成日	平成21年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

それぞれの利用者が、自立出来るように介助している点

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>新たに「地域の人達へ感謝の挨拶 仲間同士の力強い挨拶 利用者への優しい見守りの挨拶 家族の皆さんへ絆の挨拶 本音の挨拶でその人らしい生活を続けましょう」と事業所の理念を作成し、共用空間や事務所に掲示されていた。代表者は「介護は心のつきあい」と考え「利用者一人ひとりとどう向き合っていくか」ということを考えながら日々取り組まれている。</p> <p>ご姉妹からハガキが届いたり、事業所側から連絡をされたりしている。利用者の幼少時代に過ごした「楽しかった思い出の場所」に出かけることを楽しみに日々過ごしておられる方もある。</p> <p>事業所の駐車場で「いも炊き」をされた際には、事前に地域の方、個々のお宅を訪ねお誘いしたり、ハガキや電話で案内をされた。時には事業所の車にマイクを付けた街宣車で案内することもある。「いのこ」や「牛鬼」が来てくれたり、小学生の登下校時には、窓から手を振る等、子供たちを見守っておられる。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームコスモス

(ユニット名) こでまり

記入者(管理者)

氏名 秋本コマ子

評価完了日 21年 11月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域と密着した理念を管理者と職員は理解・共有して介護の実践に繋げている。	
			(外部評価) 新たに「地域の人達へ感謝の挨拶 仲間同士の力強い挨拶 利用者への優しく見守りの挨拶 家族の皆さんへ絆の挨拶 本音の挨拶でその人らしい生活を続けましょう」と事業所の理念を作成し、共用空間や事務所に掲示されていた。代表者は「介護は心のつきあい」と考え「利用者一人ひとりとどう向き合っていくか」ということを考えながら日々取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所の代表者が地域の自治会に加入し地域行事には必ず参加している。併せて当事業所の行事には近隣の方々や代表者の参加を仰ぎ利用者との交流の場を設け、コミュニケーションを計っている。	
			(外部評価) 事業所の駐車場で「いも炊き」をされた際には、事前に地域の方、個々のお宅を訪ねお誘いしたり、ハガキや電話で案内をされた。時には事業所の車にマイクを付けた街宣車で案内することもある。「いのこ」や「牛鬼」が来てくれたり、小学生の登下校時には、窓から手を振る等、子供たちを見守っておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人々は、ほとんどの人が 認知症とは物忘れがひどくなった程度の認識しか持っていない。地域の集会などの場を利用して現場で積み上げてきた実践と現状を伝え理解を深め個々の介護に生かしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護する上での問題点について運営推進会議の場で事 例を提示して意見を求めている。意見交換して決定し たことや問題点などについては家族便りを利用して家 族に報告し理解していただければ実践しサービス向上 に生かしている。</p> <p>(外部評価) 会議を2カ月に1回開催し、事業所の活動報告をされ たり、研修時の報告等をされている。又、毎回議題を 決めて「災害対策」「感染症対策」等についても意見 交換をされている。現在は、市の担当者に出席いただ けるよう平日の午後から会議を開催されており、駐在 所の警察の方や地域の役員の方等にも参加をいただ き、地域性等も考慮したアドバイスをいただいている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護している時点で特に法的なことなど疑問が生じた 際には必ず市担当者に事業所の実情を説明し意見交換 を積み上げサービス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 代表者は、利用者の支援や法令、制度等について疑問 を感じる際には、行政に連絡して指導を仰ぐように されている。市の定める運営推進会議の報告書に基づ き、会議内容を市に報告されている。市内の他グルー プホームとの交流会に参加されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 当事業所において、玄関の開閉は自動であるが外出し たい利用者にはヘルパーが同行し、いつでも外出は可 能。玄関の施錠を含めて身体拘束は一切行っていない。</p> <p>(外部評価) 利用者の行動を見ながら傾向を把握して支援できるよ う努めておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) よく話題になるのが言葉での虐待、会議などでは虐待が見過ごされる事がないよう具体的な言葉について互いに注意し、防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や職員は制度は理解しても法律と現実とのギャップに相当苦慮している例がある。(成年後見人制度があっても制度の利用が困難)(スプリングクラーの設置問題)	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結・解約の時点では十分な説明を行い納得をいただいている。改定などの際には運営推進会議や家族会の集会などに提起し了承されれば家族便りをとって了解を得ている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会総会などで外部評価のアンケートなどを参考にしながら意見や苦情などを受け入れており最近では要望が増えてきている。 (外部評価) 毎月、利用者個別の日常の様子を載せた「家族便り」をご家族個々にお送りしている。家族会への参加や敬老会やいも炊き等の事業所の行事時に、ご家族もともに楽しめるよう案内をされている。	 事業所では今後「ご家族とのつながりを深めていきたい」と考えておられる。「お任せします」と言われるご家族も多くあり、事業所に家族の声が届きにくい現状のようである。今後、チームで利用者を支えるためにも、ご家族の声を具体的に引き出せるような事業所側からの働きかけの工夫が期待される。終末期のあり方や体調面、支援等、ご家族の不安や心配なこと等を具体的に聞いてみるような機会も作ってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			職員の意見や提案は毎月(1日)の職員会議で取り上げ、討論し反映させている。	
			(外部評価)	
			利用者個々の担当職員が、ご本人の日ごろの様子を観察して文章にして、「家族便り」に載せておられ、取り組みを重ねるうちに、文章作りが上達したと代表者は感じておられる。代表者は、職員を大切に思っておられ「人として同等」という考えのもと、叱咤激励し、職員を導いておられる。	事業所のケアサービスの質向上のためにも、職員のさらなるスキルアップが期待される。今後事業所では、県内外の研修に職員が受講できるような機会を作り、研修後に「レポートを書くようにしたい」と考えておられる。さらに、事業所内でも、全ての職員でスキルアップできるよう、職員の希望も聞きながら勉強する機会を積極的に作っていかれてほしい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者(管理者)は事業所へ泊り込みで職員の勤務状況の把握を行なっている。国の介護報酬見直しに沿って個々の職員の努力や実績に対して各自の希望を出きだけ叶えられよう努力をしている。	
13		職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			各機関から送付される研修・学習等の案内を回覧し、できるだけ参加するように呼びかけ、又参加した内容については定例会で報告、全員に周知徹底し働きながらのトレーニングを日々進めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			包括支援センター主催の連絡協議会の上に今年度は、三間町連絡協議会も立ち上げ近隣の事業所・同業者との交流する機会を深め、サービスの質向上に取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			サービスを開始する段階で、先ず利用者の要望、意見などを徹底的に聞く。聞き方や場所などは本人が安心出来るよう心がけ、信頼関係の確保に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	
			<p>全体的なことは家族便りを通して、個々の問題については要望の細部に至るまで丁寧に説明し不安解消に努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	
			<p>相談を受けて面接する段階で、家族構成、生活歴、本人及び家族の要望・意見などを把握し要約して担当者会議に提起し最重要課題を見極めてケアプランを作成している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	
			<p>洗濯物の取り込み、たたんでそれぞれの持ち主別に分類する、食事の準備・後始末、などなど、本人の能力に応じて出きることを段階的に上げながら職員と共同で作業している。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	
			<p>利用者が家族と過ごす時間をどんなに幸せに思っているのか、先ず職員は理解することが必要だと思われまます。イベントの内容・回数などを工夫して家族との絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築き、深めるよう、努力している。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	
			<p>入所まえに交流のあった近所、友達、親戚の方々との電話や手紙(代筆)などでの連絡を促し出きるだけ訪問していただくよう援助している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ご姉妹からハガキが届いたり、事業所側から連絡をされたりしている。利用者の幼少時代に過ごした「楽しかった思い出の場所」に出かけることを楽しみに日々過ごしておられる方もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	孤立させないためには利用者一人ひとりの生活歴や性格を把握しながら全体の問題として捉え利用者同士が関わりながら支えあえるような環境づくりに努める。
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	退去(契約終了)後も相談があればすぐに対応し支援する用意がある。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	常に利用者の声に耳を傾け本音を把握する努力をしている。
			(外部評価)	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	入居まえの暮らしについては契約時に本人あるいは家族を通して情報を得ているが入居後も家族や訪問者からの情報入手に努めサービス向上を目指している。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	定例会において一人ひとりの現状を分析し、どのように過ごすのを希望しているのか議論を交わしケアプランに繋げている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	<p>さらに、ご本人主体の介護計画の作成に取り組んでいかれてほしい。利用者個々のアセスメントを十分に行い、ご家族にも具体的に相談される等、意見を引き出し計画に採り入れていかれることが期待される。又、利用者の現在の状態に即した計画作成に取り組み、貴事業所のさらなるケアサービスの質の向上を目指していかれてほしい。</p>
			<p>家族の仕事や時間の都合で現状に即した介護計画とはいえないまでも出きるだけ家族や本人の意見は尊重し介護プランに生かせるような努力をしている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	<p>サービスを開始する段階で、先ず利用者の要望、意見などを徹底的に聞く。聞き方や場所などは本人が安心出来るよう心がけ、信頼関係の確保に努めている。</p>
			<p>サービスを開始する段階で、先ず利用者の要望、意見などを徹底的に聞く。聞き方や場所などは本人が安心出来るよう心がけ、信頼関係の確保に努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	<p>柔軟な支援は研修や勉強した知識をもとにケアプランに挙げ既存のサービスにとらわれないよう取り組んでいる。</p>
			<p>柔軟な支援は研修や勉強した知識をもとにケアプランに挙げ既存のサービスにとらわれないよう取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	<p>地域老人や近隣のかたたちとの交流を深めるように計画は度々議論しているが協働の段階には来ていない。</p>
			<p>地域老人や近隣のかたたちとの交流を深めるように計画は度々議論しているが協働の段階には来ていない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>入所と同時にかかりつけ医について本人や家族の希望 を確認し納得が得られた場合は近くの主治医に変更し 適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入居時、これまでのかかりつけ医を続けて受診する か、往診をしてくれる協力医にお願いするか、ご本人 ご家族に決めてもらっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	(自己評価)	
			<p>どちらのユニットにも看護職員を配置しているので医 療に関しては看護職員の知識を得て個々の利用者が適 切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入居時、ご家族の希望をお聞きして、医療が生じない 場合は、事業所で最期まで居られることを伝えておら れる。利用者の状態変化時には、医師の判断を仰ぎ、 その後の対応をご家族とともに相談されている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>利用者が入院した場合、管理者は出きるだけ訪問し病 院関係者との情報交換を行い早期退院ができるような 環境づくりに努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>終末期が近づいた利用者の家族には頻繁に話し合いを 重ね事業所の方針については十分に理解し共有してい る。運営推進会議などで地域の代表にも伝え理解して もらっている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>終末期が近づいた利用者の家族には頻繁に話し合いを 重ね事業所の方針については十分に理解し共有してい る。運営推進会議などで地域の代表にも伝え理解して もらっている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入居時、ご家族の希望をお聞きして、医療が生じない 場合は、事業所で最期まで居られることを伝えておら れる。利用者の状態変化時には、医師の判断を仰ぎ、 その後の対応をご家族とともに相談されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			事故が発生した場合には次期の定期会議において原因と処理方法について意見交換し特に看護士の職員から初期対応について参考意見を出してもらって対応している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			運営推進会議において数回のシリーズで取り上げようとしたら災害時に最小限度の被害で押さえられるか検討中の段階である。	
			(外部評価)	
			運営推進会議時、ご家族や消防署の方からいざという時の協力体制について「特に地域との関係を密接にしておくことが大切」とアドバイスをいただいた。廊下や事務所にヘルメットを準備されている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			開設当初の理念(逆らわず従わず)に基づいて耳を傾け言葉を掛け合いながら対応している。	
			(外部評価)	
			利用者のこれまでの生活の経緯等も考慮して「利用者個々と向き合うこと」を大切にかかわっておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			利用者には常に声かけをし、出きるだけ抵抗なく希望が表せたり又、自己決定が出来るような環境づくりや自己決定が困難な方には家族と連絡を密にして自己の気持ちを引き出せるような取り組みを行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) (貴方、何かしたいことありませんか?)管理者が先頭にたって質問を繰り返し、一人ひとりのペースに合わせた自立に向かってのプランになっているか反芻しながら支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の中には高価な物 = おしゃれと位置づける方がおられます。身だしなみやおしゃれはまづ職員から気をつけ、本人に声かけをして本人が決定できるような支援に徹している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑から持ち帰った野菜や近所から届けられた山栗などをきれいに処理していただく。また食事の準備や後片付けなども利用者の能力に合わせて職員と一緒にしている。	
			(外部評価) 事業所の畑で採れた野菜もふんだんに使用して食事作りをされている。2ユニットで日々食事を担当する職員が話し合い、メニューを決めておられる。事業所ではできるだけご自分の力で食事ができるよう、ご本人の食べ方を尊重されている。職員が楽しく利用者に話しかけておられる様子がみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理者自身が栄養士の資格を持っているのでその知識を生かして栄養摂取や特に水分確保には気をつけるようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内の清潔や咀嚼することがいかに健康な身体に大切か利用者に語りかけながら毎食後の口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツが何故必要なのか？利用者の側からの支援になっているのか？自問自答の毎日です。もっと勉強をする必要性を感じています。	
			(外部評価) ご自分でパット等を交換する方もある。利用者の状態に応じて介護用品を用いて支援されている。居室にポータブルトイレを置いて使用されている方もあった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜を使い食物繊維を多く摂取できるような献立に心がけているので便秘の予防には約立っているが今後不足勝ちな運動について個々の状態に応じた取り組みの必要性を痛感している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) どうしても一番ではないと、と主張する人、入りたくないと拒否する人、希望は様々ですが健康には入浴が大切であることを納得していただき、介助しながら歌を歌ったり昔話をしたりして個々に応じた楽しい入浴介助に心がけている。	
			(外部評価) 現在は、隔日で入浴できるよう支援されている。服の着脱についてもご自分の癖等に配慮しながら、職員は見守りそっとサポートされている。お風呂の声かけをすると、ご自分で準備して入る方もある。湯船で温まれるように支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活歴からこれまでの生活習慣を把握し参考にはするが団体生活のなかでのけじめや健康上必要と判断した場合の生活習慣変更には応じていただくよう取り組んでおり理解されながら休息や安眠が出来る事を心がけている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) この薬が本当に必要なのだろうか？と説明書を見ながら感じる事があります。従業員の中には副作用や用法、用量について不安を持ちながら医師の指示に従って症状の変化の確認に努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や日日の会話の中から一人ひとりの趣味や生きがいを引き出し気分転換などの支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望にそって出きるだけ戸外に出かけられるよう心がけているが出かけることは、お菓子の買い物と位置づけて家族からあまり外に出さないで下さいとの要望がある方もある。今後は本人や家族の意見や希望を調整しながら支援して行きたい。	
			(外部評価) 天候をみながら、おやつを持って散歩に行かれることもある。利用者同士で相談して、お金を持って近くのスーパーにおやつを買いに出かけることもある。季節に応じてチューリップやコスモス等のお花を見に行かれたり、三間のコスモス館でソフトクリームを食べることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 原則として1人当たり2000円事務所で預かり、外出の折、本人に渡して事由に使えるよう支援している。個室での管理が困難と判断し特定の方を除いて昨年の方針を一部修正した。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人からの要望があれば手紙の手伝いをしたり電話の取次ぎをして答えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			共有空間においては衛生面での管理に気をつけながら廊下での掲示物や玄関・休憩室などに季節の花を飾ったりして居心地よく暮らしていただけるよう工夫している。	
			(外部評価)	
			玄関にはクリスマスの飾りや利用者の習字の作品が飾られていた。ソファやテレビがある畳の間で利用者は日中を過ごされることが多い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			昨年と同様 食堂のテーブル テレビ室のソファ その他ベンチや椅子などを配置して利用者個々の意向に合わせた居場所の充実を図っている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			常設の物はベット(洋間)とたんすのみ、その他は好みのものや馴染みの物など自由に使ってもらっている。	
			(外部評価)	
			利用者のご事情等にもよって居室のしつらえもそれぞれである。お位牌を持ち込まれている方は、ミカンを供え、散歩時に摘んだ野菊を飾っておられた。化粧品を置いてお顔の手入れをされる方もある。	さらに、居室の環境等がご本人の居心地の良い環境となっているか、職員で点検する機会とされてはどうか。介護用品や洋服等を納めてある段ボール等の収納の配慮や室温やしつらえ等、ご本人が日中、居室も利用しながら生活を助けられるような工夫等もすすめてみてはどうか。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			利用者それぞれの理解力、判断力に差があるため個々の能力をしっかりと把握しそれぞれに合わせた安全で自立した生活がおくれるように工夫している。	